

# 報 恩 寺 だ よ り

昭和55年1月1日

神奈川県綾瀬市寺尾889

おたすけ観音 報 恩 寺

電話 0467-78-7160

新年おめでとう御座居ます。1980年代の最初の年、新しい発展の年となる事が期待されます。「時間が過ぎ去って行くのではない。我々が過ぎ去って行くのだ。」と西洋の諺が有ります。時を尊び、自分自身を尊ぶ事は仏教の基本ですが、自分自身を尊ぶ方法に日常の五心があります。

1. はいと云う素直な心
1. すみませんと云う反省の心
1. おかげさまと云う謙譲の心
1. 私がしますと云う奉仕の心
1. ありがとうと云う感謝の心

昭和55年を有意義な稔り豊かな年とされるよう、日常の五心の原点に立って御活躍下さい。

## ◎ 永平寺二祖様大遠忌について

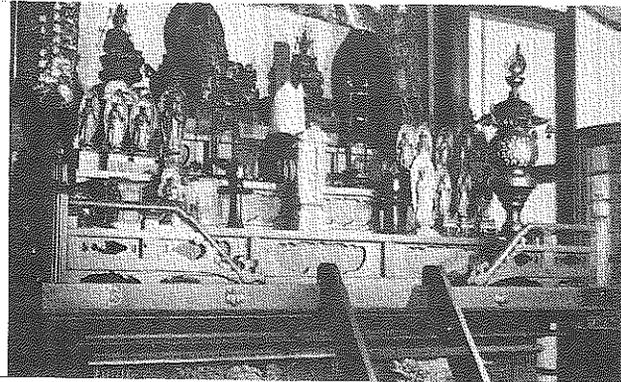
本年4月23日から5月13日までを本法要、9月29日までを準法要期間として、永平寺二祖国師孤雲懷奘禅師の七百回大遠忌が勤修されますが、1月10日迄に、この大遠忌の香資を御志納頂くよう、お願いしました所、既に多数の方々から多額の懇志を頂き有難う御座居ます。

次の大遠忌は750回忌で、50年先であり、御開山道元禅師の750回忌も23年先で、今回の大遠忌に参拝出来るのは有難い勝縁です。団体参拝の申込は昨年末まででしたが、人員に余裕がありますので、1月

10日までに、御希望の方はお誘い合せのうえ、御申込願います。

◎ 須弥壇新造について

昨年8月に須弥壇が造られました。福田の山下秀夫氏の特別志納を初めとして、多くの方の特別志納をもって完成いたしました。古代印度の宇宙説による帝釈天を主とする三十三天の宮殿がある。世界の中心をなす高山、須弥山をかたどっている須弥壇は、本尊様を安置する台座で、以前は箱形の台の上に金欄が覆われておりましたが、今回正式の須弥壇が整えられました。(工事費413万円)



◎ 墓地整備指定業者について

墓地整備の指定業者として秋山一夫石材店を指定いたしました。特に新らしい場所に出来た墓地使用の方は、この業者を御利用下さい。境内の清掃、整備を良く奉仕している業者です。

◎ 特別御寄進

特別御寄進を被露申し上げて、各位の御芳志に感謝すると共に、供養菩提の御冥福をお祈りいたします。

特別寄進

# 健康で 長生きしたい

多くの日本人に親しまれている人のひとりに、達磨さまがいます。印度人が中国人が知らないけれど、それでいて誰にも親しまれて、置物や飾り物にまてなっているし、選挙になるといつも頼られているようです。それは、印度の坊さんで達磨大師さまだと言うと、「ヘー、そうですか」と感心顔されます。

修行四十数年、印度での活動が四十数年、百歳を越してから船旅で中国にわたられました。そして、三年後に面壁九年ただひたすらに坐禅にうちこんだのです。そこで手もない足もないダルマさんと言われるようになりました。素晴らしい健康と長生きの生涯と申せましょう。

しかも、決心したら絶対にくじけない体力と不屈の精神力が万人の尊敬するところとなつたばかりか、自分たちもそれにあやかりたい願いとつた訳です。

誰しも長生きしたい。それも丈夫で……

その上、達磨さまと同様に思いつたことは全部成功したいのが人情。そこで勝負ごとの中でも最も恐かしい選挙にまで引き出されるとはお気の毒なことです。

元且の朝の本山行事ほど気持ちのよいものではありません。除夜の鐘の撞き初めをして勅使門へ進む。お詣りの人々をかき分けて先頭を行く。どの人も明るく笑っている。大本堂の初祈禱に座っている老若男女は、みな着飾って美しい。屈托のない顔が居並びます。

一年、三六五日。「このままの美しい姿と笑顔ならいいがなア」と考えこまされる。だが、大方は元且だけの心のきれいなのです。たつた一朝だけのすがすがしい気持ちで生活を忘れ、欲を離れた姿なのです。それが夕方までにはだんだんと薄れ、三日後は、全く平常のあさましさに還ります。見るも無残な田舎の姿となるのです。仏教では、これを凡夫といひます。

その中でも気をつけたいのは、自分だけや自分の家族だけの幸せを願って、他はどうでも知ったことじやないと言う我利／＼振りです。そればかりか、わが子にまでソレを要求しています。他を押しつけても、自分だけよければよいと教えるのです。

つまり、「世に有能な人材に成れ！」と叩き込む父母なのです。ただ進学のための試験に血眼になる親たちの非情な心に育てられた子が、成人したらどうなるかを思ってもみないのです。

その報いがいろいろな形で現われています。当の親たちに背く非情な子に成っている報道を数多く聞くではありませんか！

翻つて、大人の世界の現実では、有能な人材は政界でも財界でも学界でも、どの職域でもほとんど出世してゆき、有名人となり、各界の首脳となります。

しかし、有能な人材による犯罪が頻々と起きている現状をなげくとき、その因つて来るところを検討せずには居られません。答えとして、親たちばかりでなく、社会が単に有能な人材を要求したからであつたと痛感させられます。所詮、要求してきた社会各層の自業自得のみじめな結果に他ありません。

仏教では、有能な人材作りを説きません。ひたすら願うところは、人々が本来の自分にめざめ、立派な人間に成る道であります。だから有能な人材に成る以前に、立派な人間に成つて頂かねばならないのです。

この原理に一日も早く気付くことが、人類全体の幸せへ通ずる道なのです。高祖道元禪師さまは、身心自からも愛すべし自からも敬うべしと教えられました。常に自分が自分を大切にしてゆく生き方、たよられる自分の完成のため不断の精進をすることがみ仏の教えであります。

そうした真実の生き方をなされたのが達磨さまです。大晦日から元且にかけて、深く自分を反省し、欲や迷を離れた自分を毎日持ちつづけてゆくことを、太祖瑩山禪師さまは、平常心是道と説かれました。

そこに身も心も二つながら健康で長生きの道が開かれるのです。文／総持寺監院 松浦 英文